

進行再発乳癌における初回骨転移を伴った症例の予後の研究

1. 研究の対象

2017年1月～2021年11月までに初めて乳癌と診断されたときに骨転移があった、あるいは乳癌が再発したときに骨転移と診断された方が対象になります。

2. 研究目的・方法

乳癌の遠隔転移は予後不良因子となるが、骨転移は疼痛や骨折リスクによりQOLの低下に繋がることが多いものの、他の肝転移や肺転移のような臓器転移と比較して生命危機の状況になることは少ないとされています。このことを実際に比較検討した報告は少なく、初回骨転移診断時に他臓器転移を伴っているかどうかにも着目し、当院での症例で検討することを目的としました。

以下に示す情報を用いて骨転移診断後からの全生存期間を評価します。また初回骨転移診断時の他部位転移合併率や全生存期間の特に長い症例や短い症例での影響要因を検討します。

研究実施期間は、倫理委員会承認日～2027年12月31日までになります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：治療時の年齢、治療開始年月日、乳癌の病理診断、骨転移部位とそれによる症状の有無、他臓器転移の有無、薬物治療の治療歴、治療経過、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知県南国市岡豊町小蓮185番地1

高知大学医学部外科学乳腺・内分泌外科学

高知大学医学部附属病院乳腺センター 沖 豊和（研究責任者）電話：088-888-2139